



自慢のパワーとチームワークを披露する選手たち

力と力の真っ向勝負！**■アスファルト綱引き**

市商工会青年部の主催によるアスファルト綱引き大会が11月12日、市役所棟原庁舎駐車場で開催されました。

大会には市内外から15チームが参加。6人制で合計体重450キロ以下を条件とし、ビギナークラス（未経験者）とエキスパートクラス（上級者）の2部門に分かれ、熱戦を繰り広げました。

参加者は「勝った瞬間、鳥肌が立つくらい最高でした。楽しかったので来年も参加したいです」と話しました。

かわいいポニーがやってきた**■ポニー教室**

地頭方保育園で11月7日、ポニー教室が行われました。

この教室は、馬関係の仕事をしていた鈴木隆春さん（豊岡区）が、園児たちに動物を大切にする気持ちを持ってもらおうと始め、今年で29年目。園児らは、鈴木さんの指導のもと、乗馬体験や餌やり、写真撮影などでポニーと触れ合いました。

鈴木さんは「園児たちの笑顔が見たくて続けています。馬に触れ合って自然と動物を大切にできる子どもに育ってほしい」と話しました。



乗馬体験でポニーと触れ合う園児

地域の魅力を発見しながら健康に**■第3回まきのはらビタミンツーデーウォーク**

11月25日と26日の2日間、市内を歩く「まきのはらビタミンツーデーウォーク」が行われました。

初日は棟原地域、2日目は相良地域でそれぞれ約7キロと15キロのコースが用意され、市内外から参加した約420人が、市内の美しい景色を眺めながらウォーキングを楽しみました。

参加者は、休憩所で呈茶サービスなどのおもてなしを受けたほか、2日目のゴール地点では、まきのはら産業フェアが開催され、地域の特産品などを堪能しました。



市内の美しい景色を眺めながらウォーキングを楽しむ参加者

**歴史ある貴重な品々を展示****■田沼のまち屏風祭**

11月18日から26日の9日間、市史料館で特別展示「田沼のまちの屏風祭」が開催され、市内の旧家や寺社に伝わる25点の屏風が披露されました。

この展示は平成31年の田沼意次侯生誕300年記念に向けて、「田沼のまち」が伝えてきた貴重な文化財をより多くの人に知らおうと行われました。屏風は主に江戸時代から昭和までの郷土ゆかりの画家や書家が描いた作品です。

来場者は市の歴史を感じながら、貴重な品々を一つ一つ眺めていました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報を待ちしています。

秘書広報課 ☎052 230052 E-mail: seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



歩行者天国となった本通り商店街・しんまち遊ロード

にぎわいを商店街の活性化に**■まきのはら産業フェア2017**

盛り上がりを商店街の活性化につなげようと「まきのはら産業フェア2017」が11月26日、本通り商店街・しんまち遊ロードで開催されました。

約400メートルの道路が歩行者天国となった会場には、市内の企業や団体をはじめ、姉妹都市の長野県松川町、友好都市の熊本県人吉市、青森県三戸町など、約80団体が特産品の販売や日ごろの活動を紹介しました。

市内外から訪れた大勢の人が、特産品のミカンや自然薯をはじめ、交流都市のワインやリンゴなどを買い求め、会場はにぎわいました。



幼稚園や保育園の園児の力作を見る来場者

海上の安全と無病息災を祈って**■鹿島神社の御船神事**

市指定無形民俗文化財「鹿島神社の御船神事」(川崎区)が、11月5日に行われました。

江戸時代後期から続く鹿島神社の例祭で、海上安全と無病息災を祈る神事です。

神事に使われる樽廻船の模型は、全長約2メートル。船若と呼ばれる青年たちは、神社の裏にある井戸水で身体を清め、柱おこし、帆揚げを行った後、掛け声に合わせて境内や沿道で、荒波を越えて航海する様子を表現しました。また、御船に子どもを乗せ、無病息災を祈りました。



掛け声に合わせ荒波を越えていく様子を表現する船若たち

市民の力作ぞりり芸術の秋を満喫**■第12回牧之原市文化祭**

第12回牧之原市文化祭が11月4日と5日、静波体育館や棟原文化センターなどで開催されました。

静波体育館では、市文化協会の会員をはじめ、日ごろから創作活動をしている市民や園児、小中学生、高校生らの絵画や書道、写真、俳句、水墨画、手芸など、さまざまな力作が展示され、活動の成果が披露されました。

棟原文化センターでは、茶会やお茶の手揉み実演、うすつゆ茶の試飲、囲碁大会などが行われ、来場者は芸術の秋を満喫しました。